

「未来に残したい草原の里 100 選」 第1回選定地域が決まりました

- 美しい草原の風景を残す地域を、100選として選ぶ、国内初の取り組みです。
- 選考委員会は、湯本貴和京都大学名誉教授（委員長）、養老孟司氏などからなります。
- 北海道から九州まで、34箇所の里が選定されました。

● 草原がつくる風景は広々として心地よく、どこか懐かしい気持ちになります。かつて草原は、茅葺き屋根の材料を得たり牛馬を放したりと、日本の暮らしを支える存在でしたが、今では国土の1%にまで激減しました。一方近年では、観光資源として優れ、多くの希少動植物が暮らすなど、多様な価値が見直されています。

● そこで、「全国草原の里市町村連絡協議会」（会長：岩井茂樹東伊豆町長）では、全国に残る草原とその里に光を当て、人と自然の関わりの中で培われてきた知識や技術、人々の想いを共有し、次世代へ受け継ぐため、国内初となる「未来に残したい草原の里 100 選」の選定事業を開始しました。

● 2021 年秋に第一次募集を始め、全国の草原をもつ地域 34 節所から応募がありました。2022 年 3 月に、複数の有識者からなる選考委員会（委員長：湯本貴和京都大学教授）を開催し、北は北海道、南は九州から全国 34 節所の「未来に残したい草原の里 100 選」を選定しました。



未来に残したい
草原の里
100選



■ 本リリースに関するお問合せ

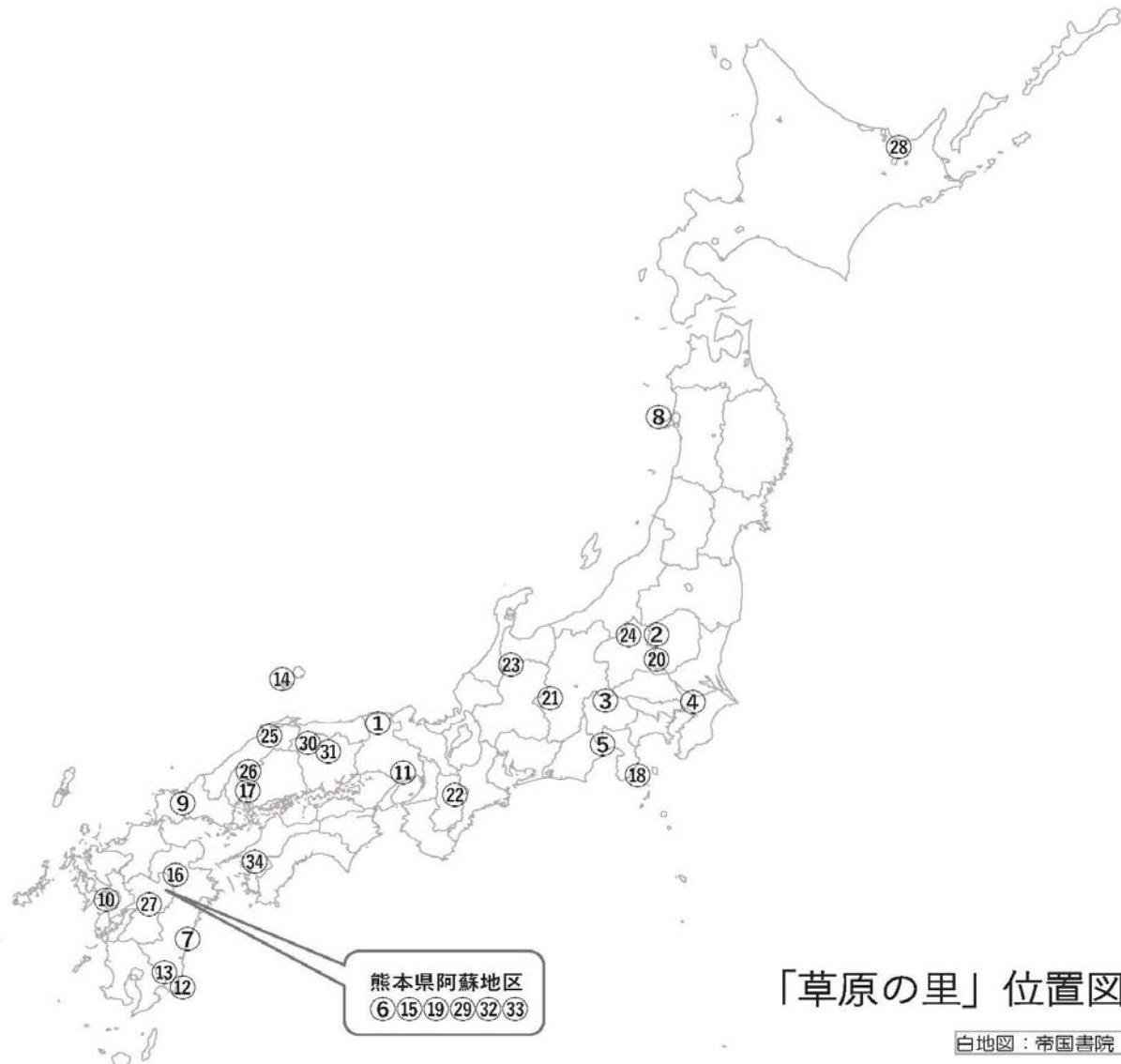
全国草原の里市町村連絡協議会 事務局 担当：山田・前田

〒413-0411 静岡県賀茂郡東伊豆町稻取 3354 東伊豆町 企画調整課

Tel: 0557-95-6202 Email: sogen100@sogen-net.jp

<資料 1> 選定された「未来に残したい草原の里 100 選」の名称および位置

1	上山高原(うえやまこうげん)	18	稻取地区特別財産運営委員会 (いなとりちくとくべつざいさんうんえいいいんかい)
2	土呂部の草原を次代に - 日光茅ボッチの会 (どろぶのそうげんをじだいに - にっこうかやばっちのかい)	19	南阿蘇村牧野組合(みなみあそむらばくやくみあい)
3	乙女高原ファンクラブ(おとめこうげんふあんくらぶ)	20	キスゲ平(きすげだいら)
4	谷田武西の原っぱと森の会 (やたむざいのはらっぱともりのかい)	21	木曾町開田高原(きそまちかいだこうげん)
5	富士宮市根原区朝霧草原 (ふじのみやしねばらくあさぎりそうげん)	22	曾爾高原を守る会(そにこうげんをまもるかい)
6	産山村(うぶやまむら)	23	菅沼(すがぬま)
7	川南町(かわみなみちょう)	24	入会の森「上ノ原茅場」 (いりあいのもり「うえのはらかやば」)
8	寒風山(かんぷうざん)	25	三瓶山麓草原の里(さんべさんろくそうげんのさと)
9	秋吉台(あきよしだい)	26	芸北(げいほく)
10	奥雲仙田代原草原(おくうんせんたしろばるそうげん)	27	御船町(みふねまち)
11	東お多福山草原保全・再生研究会 (ひがしおたふくやまそうげんほせん・さいせいけんきゅうかい)	28	小清水原生花園(こしみずげんせいかえん)
12	都井岬(といみさき)	29	高森町(たかもりまち)
13	笠祇・古竹草原(かさぎ・ふるたけそうげん)	30	大山隠岐国立公園鏡ヶ成保全再生活用協議会 (だいせんおきこくりつこうえんかがみがなるほせんさいせいかつようきょうぎかい)
14	西ノ島町(にしのしまちょう)	31	蒜山高原(ひるぜんこうげん)
15	阿蘇市(あそし)	32	熊本県小国町(くまもとけんおぐにまち)
16	くじゅう飯田高原(くじゅうはんだこうげん)	33	阿蘇・南小国町(あそ・みなみおぐにまち)
17	深入山(しんにゅうざん)	34	大野ヶ原の草原(おおのがはらのそうげん)



「草原の里」位置図

白地図：帝国書院

<資料2> 選定地と応募団体

都道府県	草原の里	応募者（団体）の名称
北海道	28_小清水原生花園	小清水町産業課商工観光係
秋田県	08_寒風山	男鹿市観光文化スポーツ部観光課
富山県	23_菅沼	越中五箇山菅沼集落保存顕彰会
栃木県	02_土呂部の草原を次代にー日光茅ボッチの会	日光茅ボッチの会
栃木県	20_キスゲ平	一般財団法人 自然公園財団
群馬県	24_入会の森「上ノ原茅場」	森林塾青水
千葉県	04_谷田武西の原っぱと森の会	NPO法人谷田武西の原っぱと森の会
山梨県	03_乙女高原ファンクラブ	乙女高原ファンクラブ
静岡県	05_富士宮市根原区朝霧草原	富士宮市根原区
静岡県	18_稻取地区特別財産運営委員会	稻取地区特別財産運営委員会
長野県	21_木曽町開田高原	ニゴと草カッパの会
奈良県	22_曾爾高原を守る会	曾爾高原を守る会
兵庫県	11_東お多福山草原保全・再生研究会	東お多福山草原保全・再生研究会
兵庫県	01_上山高原	NPO法人上山高原エコミュージアム
岡山県	31_蒜山高原	真庭市
広島県	17_深入山	安芸太田町
広島県	26_芸北	認定NPO法人西中国山地自然史研究会
鳥取県	30_大山隠岐国立公園鏡ヶ成保全再生活用協議会	大山隠岐国立公園鏡ヶ成保全再生活用協議会
島根県	14_西ノ島町	西ノ島町
島根県	25_三瓶山麓草原の里	認定NPO 法人 緑と水の連絡会議
山口県	09_秋吉台	秋吉台の自然に親しむ会
愛媛県	34_大野ヶ原の草原	西予市教育委員会
長崎県	10_奥雲仙田代原草原	特定非営利活動法人 奥雲仙の自然を守る会
大分県	16_くじゅう飯田高原	飯田高原野焼実行委員会
熊本県	06_産山村	産山村経済建設課
熊本県	15_阿蘇市	阿蘇市
熊本県	19_南阿蘇村牧野組合	南阿蘇村
熊本県	27_御船町	御船町
熊本県	29_高森町	高森町農林政策課
熊本県	32_熊本県小国町	熊本県小国町
熊本県	33_阿蘇・南小国町	南小国町役場
宮崎県	07_川南町	川南町教育委員会
宮崎県	12_都井岬	串間市教育委員会
宮崎県	13_笠祇・古竹草原	串間市教育委員会

<資料 3> 未来に残したい草原の里 100 選について

趣旨

かつて、日本の暮らしあは草原によって支えられてきました。縄文時代から建築物に茅が使われはじめ、農耕が始まつてからは、肥料や敷草、堆きゅう肥の材料として、また、物資の運搬や耕耘などの作業を担う牛や馬の飼料として草が必要でした。ワラビやゼンマイなどの食物、衣料としての苧麻（カラムシ、チヨマ）、センブリやオトギリソウなどの薬草を得る場として、あらゆる面で草原の恵みを受けながら、暮らしが営まれてきました。限られた土地の中で資源を最大限に活用するため、草原を利用するルールや火入れ（山焼きや野焼きなど）の技術が日本各地で生み出され、引き継がれてきました。草原と共にある暮らしあはさらに、秋の七草を愛で、盆には草花を備えるなど、豊かな心情や文化も醸成してきました。

しかし、高度経済成長期以降、草原は国土の 1% にまで激減しています。

失われつつある草原の自然と人々の営みをめぐって議論を重ねる中で、草原のある里で育まれてきた「過去のものと思われていた」技術や知恵こそが、これから持続可能な社会を実現する上で欠かせないものであることが分かってきました。そこで、2018 年 7 月 4 日に、全国 23 自治体の首長が組織する「全国草原の里市町村連絡協議会（連絡協議会）」は環境省に「全国草原の里 100 選」の検討を進めていくことについて要望書を提出し、連絡協議会として選定事業を推進しています。

「共創資産」を引き継ぐ

地域における草原と向き合い方は、人々の草原への働きかけと草原からのフィードバックが繰り返されることで、経験的に紡がれてきたものです。人と自然との長年にわたるやり取りにより地域に蓄積された知識・意識・技術、それこそが草原の里が持つ価値です。この価値あるものを「共創資産」と捉えました。日本各地の草原の里にはそれぞれに共創資産が残されているはずです。各地に残る「共創資産」を日本全体で共有し、活用していくことで、次世代に希望のある自然共生型社会をつくることが「未来に残したい草原の里 100 選」を実施する目的です。

選定の視点

草原の生態系と人々が暮らす里との関係性が作りだした「共創資産」を軸に、以下の観点から選考を行います。

- (1) 生物多様性の保全
- (2) 草原を維持するしくみや、価値を享受するしくみ
- (3) 草原に対する思いの強さ
- (4) 共生型社会の実現に向けた波及効果（ロールモデルとしての期待）

未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会：

委員長 湯本貴和（京都大学名誉教授）および学識者等の有識者によって構成 <資料 4>

主 催：全国草原の里市町村連絡協議会

後 援：環境省、静岡県、全国草原再生ネットワーク、日本自然保護協会、日本茅葺き文化協会

<資料4> 未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会名簿

(委員長)

湯本 貴和 京都大学教授、京都大学霊長類研究所所長

(委 員)

安藤 邦廣 筑波大学名誉教授、一般社団法人日本茅葺き文化協会代表理事
太田 長八 全国草原の里市町村連絡協議会会長、東伊豆町長
高橋 佳孝 一般社団法人全国草原再生ネットワーク代表理事
長沢 裕 タレント、公益財団法人日本環境教育フォーラム理事
町田 恵子 東京農業大学准教授
養老 孟司 東京大学名誉教授

(2022年3月14日現在、敬称略、五十音順)

<資料5> 今後の予定

2022年秋頃 表彰式、シンポジウム
全国草原名鑑（仮称）の作成・公表
第二次選定の公募開始
2023年春頃 第二次選定

<参考>

全国草原の里市町村連絡協議会について

草原をもつ自治体間の連携と草原保全を進める目的として、2016年11月に発足しました。現在、24市町村により構成されています（現事務局：静岡県東伊豆町）。2019年の定時総会において、「未来に残したい草原の里 100 選」の選定事業を進めていくことを決めました。

■ 本リリースに関するお問合せ

全国草原の里市町村連絡協議会 事務局 担当：山田・前田

〒413-0411 静岡県賀茂郡東伊豆町稻取 3354 東伊豆町 企画調整課

Tel: 0557-95-6202 Email: sogen100@sogen-net.jp

コロナ感染拡大防止の観点から、テレワークを推奨しています。そのため、お問合せはお手数ですが上記メールアドレスへご連絡ください。ご理解のほどよろしくお願いします。